

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第113回

---

<タイトル>

「物流会社の事務所にヒトは要らない」

<本文>

物流会社の事務所にヒトは要らない。これは極論ではあるが、事務所スタッフにムダが多いことは事実であり、業務調整を行えば不必要な人員が出て、間接人件費や管理費の削減にもつながる。

皆さんの事務所はどのような人員構成になっているだろうか。

事務所内の風景を見てみよう。

アポイントなし、既存の荷主を訪問しないでデスクに居る営業担当者。

事務所に居ては困る。

外線を取らない経理担当者。

来客にいちいちお茶を出す女性スタッフ。

今では私が訪問する多くの会社がお茶やコーヒーなど出さない。

ムダである。

また、ヒトがいると必ず飛び込み営業などの対応をしなければならない。

これも大きなムダである。

帰り荷をつけられず、空車状態をしばしば作ってしまい、ずっと受話器を握り、荷主からのクレームに追われている配車担当者。

伝票の転写、手書き、入力に追われる数名の女性スタッフ。

これはシステム化を検討しなければ二度手間と記入ミス、入力ミスが発生してしまう。

終日、パソコンに座って各営業所の業績を見つめている専務。

業績を案ずるより現場に行って現場リーダーの相談にのってあげたり、具体的な指示を出すほうが業績は動く。

このように、一見必要と思われる事務所の人員と机数、スペースだが、それぞれに機能していなければ全くのムダである。

私が訪問する会社の中で、事務所にスタッフが多くいる会社は大半が赤字である。

特に、伝票関係に携わっているスタッフが多い会社は顕著である。

次回は少数の事務所経営を行っている会社の事例をお伝えする。